



『なすあり』学習研究発表会を開催

2月7日(水)『なすあり学習』の研究発表会を開催しました。

新指導要領でいわれる、子どもたちの「生きる力」を育むため、これまでの情報教育を基盤とした、有濟校独自の「総合的な学習」を『なすあり学習』と名付け、この1年間の実践、研究を報告し、ご参加いただいた方々の評価をいただき、今後どう進んでいけば良いかを見極めることを願って開催しました。

当日は、京都市内をはじめ、京都府下や他府県の学校関係者、さらに保護者の皆さんや地域の方々など250名余りの、予想をはるかに越える多くの方々の参観を得、これからの学校教育での総合的な学習や情報教育に対する関心の高さをあらためて感じました。

情報教育の研究を始めて6年になります。ここ3年間は情報教育の成果を生かし、人権問題を基盤とした『なすあり学習』を研究・実践してきました。

コンピュータを中心とした情報機器の活用で、子どもたちの学習に対する意欲の向上、自分で課題を解決していける力の向上、表現能力が高まり、『なすあり学習』で大きな成果となり、子どもたちの変容が教職員の大きな励みになりました。



今年度は『心豊かにより良いものを追求していく子』を研究主題に、サブテーマとして『なすあり学習』を通して「積極的に情報を活用する子をめざして」を掲げ、取組を進めてきました。

今年の発表会も、子どもを前面に押し出した実践発表形式をとり、同時に有濟校の特色ある取組や、同和教育についても報告しました。「小さな学校の大きく伸びやかな活動」がまた一つできました。

(授業公開)

1年生 生活科 『とっても大好き、ぼくの町・わたしの町』

1年生では、生活科の中で、自分たちの住んでいる町の冬の行事や習わしを本やコンピュータで調べたり、おうちの人や地域に住むお年寄りに聞いたりしてふれあう中で、自分たちの町の良さを再発見することと、それをコンピュータなどを使って自分なりにまとめ、自分の言葉で発表するという授業を公開しました。

自尊感情を高めることを目指した本校独自の全校集会「こころのつち」とも関連し、またデジタルカメラを使って取材したり、コンピュータに撮ってきた写真を貼り付けて絵日記を作ったりできるまでになりました。

それまでの取材活動で、地域の人とも話ができるようになり、わかったことを自分の言葉でまとめられるようにもなり、参観していただいた方々からもほめていただきました。

有濟学区のことがいっぱいわかりました。いっぱい自慢できました。

1年生にとって「とっても大好き、ぼくの町・わたしの町」になりました。地域のみなさま、ご協力ありがとうございました。これからもいろいろ教えてやってください。子どもたちは楽しみにしています。

よくがんばった1年生でした。



4年生 総合的な学習（なすあり学習）

「ふれあい」～ボランティア活動を通して～

4年生は1学期から、多くの活動を通してボランティアという課題を追求してきました。多くの人々とのふれあい、人と人とのつながりを考え、人のために共にできることは何か、自分たちにできることは何かを考えてきました。

授業の中では、これまでの仏教大学の学生さんとの交流や、地域の方々との交流、他校との交流で学んだことをコンピュータなどを使い、自分でまとめ、しっかりと発表できました。

多くの人とふれあうことで、友達の大切さに気づき、進路展望をしっかりと持ち、おもいやりの気持ちを身につけてくれればと願っています。

仏教大学の学生さん、地域のみなさんご協力ありがとうございました。



（研究協議会）

公開授業に続いて、子どもたちの学習の成果を掲示した体育館で全体研究協議会をもちました。これまでの研究の経過や成果と課題、有済校のさまざまな取組について実践報告をしました。

その中で、今年も子どもたちの発表を中心に様々な学習実践を取り入れた内容で行いました。

今年は5年生と6年生がこれまでの総合的な学習（なすあり学習）での取組を、情報機器を自分たちで使ってしっかりと発表してくれました。

（5年生）

5年生はなすあり学習での「日本のまつり」をテーマに、地域の祭りである祇園祭について学習を進めてきました。

コンピュータの電子メールを使って全国に向けてアンケート調査を行い、「全国おまつりカレンダー」を作ったり、自分たちで祇園祭を取材してプロモーションビデオを作ったりもしました。

それらの学習の様子をコンピュータを自分たちで操作して発表してくれました。

この学習を通して人とのつながりが生まれ、地元を誇りに思う気持ちが大きく育ったように思います。プロモーションビデオも良い出来栄でした。



（6年生）

6年生はなすあり学習で取り組んだ「いのちの探求」という学習について発表してくれました。

発表はコンピュータを使ったプレゼンテーションという発表の方法で、コンピュータの機能を使い、写真やビデオなどを写しながら発表していきました。

神戸の少年犯罪の手記を読み始めたのが学習の始まりで、「命の尊厳」というものについて学習を進めていきました。

発表では、命についてさまざまな側面から学習を進め、中でも臓器移植についてはインターネットを使って情報収集し、そこから派生する新たな問題点について「失われる命の重み」と「生かされる命の重み」について自分たちの思いを語ってくれました。

取組の中身だけでなく、学習しての自分の考えも発表することができました。

実に堂々とした発表振りで、参観者の高い評価を得ました。



2年生と3年生は、学習の成果を体育館のパネルに写真やまとめたものを張り出し、多くの参観のみなさんに見ていただきました。

全校のみなさん、ご苦労様でした。すばらしい成果をあげることができました。